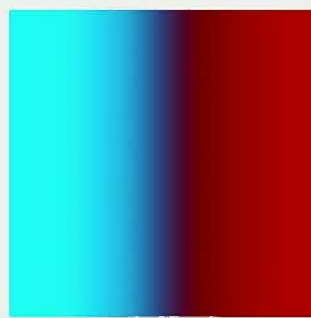




CCNJ平成29年度創造都市ネットワーク会議 新潟開港150周年記念事業 水と土の芸術祭2018
公開シンポジウム

現代アート の行方

コンテンポラリー
～同時代のアート、そして、
未来のアートの存在意義～



水と土の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018

平成30年2月8日 | 木 |
18:00 - 20:00 (開場17:30)

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 劇場
(新潟市中央区一番堀通町3-2)

| 定員 | 500人 入場無料(要申込)
※ 要約筆記, 手話通訳, 保育(有料)あり

| 問い合わせ先 | 新潟市役所コールセンター tel.025-243-4894
(受付時間: 午前8時から午後9時)

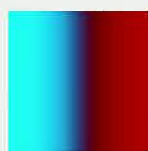
| 主催 | 新潟市(事務局 文化創造推進課 tel.025-226-2554)、アーツカウンシル新潟、
水と土の芸術祭2018実行委員会
| 共催 | 文化庁、創造都市ネットワーク日本(CCNJ)



Creative
City
Network of
Japan



現代アート の 行方



水と土の
芸術祭
Water and Land
Niigata Art Festival 2018

コンテンポラリー
～同時代のアート、そして、未来のアートの存在意義～

近年、全国各地で開催されているアートフェスティバル。地域や社会課題解決の一つの手法として、プロセスを含めた“アートプロジェクト”に期待が寄せられ、議論がされる一方で、その中心にあるはずの“現代アート”そのものについての議論はあまりされてこなかったのが現状です。

本シンポジウムでは、「水と土の芸術祭2018」の開催を控える新潟市で、日本の現代美術界を牽引するパネリストらが、“現代アート”の現状と課題等について議論し、日本文化としての“現代アート”の価値と存在意義について考え、未来に向けた方向性を探ります。

また、アートに馴染みの少ない方に向けて、“現代アート”の楽しみ方を提案します。

平成30年2月8日 | 木 | 18:00 - 20:00
(開場17:30)

プログラム | 開会あいさつ 宮田 亮平 文化庁長官
パネルディスカッション
閉会あいさつ 篠田 昭 新潟市長

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 劇場
(新潟市中央区一番堀通町3-2)

定員 | 500人 入場無料(要申込) ※要約筆記、手話通訳、保育(有料)あり



参加申込 |
平成29年12月1日(金)～ ※定員に達した場合は受付終了

WEBまたは電話にて申込
(参加者氏名、連絡先、車いす席等希望)

WEB(スマートフォン)での申込はこちら
<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-City/uketsuke/sform.do?acs=ccnj29mizutsuchi2018presympo>

※保育(生後6か月から就学前まで/有料1000円)の利用をご希望の場合は、別途、新潟市文化創造推進課(025-226-2554)に電話でお申し込みください。

保育申込締切/平成30年1月25日(木)午後5時(定員に達し次第申込締切)

申込・問い合わせ先 |
新潟市役所コールセンター tel.025-243-4894
(受付時間:午前8時から午後9時)

パネリスト



©Aterui

逢坂 恵理子 Eriko OSAKA

横浜美術館館長 / ヨコハマトリエンナーレ2017
コ・ディレクター

東京都生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業
専攻芸術学。国際交流基金、ICA名古屋を経て、
1994年より水戸芸術館現代美術センター主任
学芸員、1997年より同センター芸術監督。2007年より
森美術館アーティスティック・ディレクター。2009年
4月より横浜美術館館長に就任。また、2001年第49回ヴェネチア・ビエンナーレで
日本館コミッショナーを務め、2015年「蔡國強展・帰去来」を企画するなど数々の
現代美術展を手掛け、2011年より、2014、2017と横浜トリエンナーレに関わる。



photo:Osamu NAKAMURA

谷新 Arata TANI

美術評論家 / 前宇都宮美術館館長 / 水と土の
芸術祭2018総合ディレクター

1947年長野県生まれ。1972年、美術出版社の芸術
評論募集で一席。以降主に内外の現代美術評論
を執筆。パリ・ビエンナーレ(作家推薦 / 1977年)、
ヴェネチア・ビエンナーレ(日本館コミッショナー /
1882、84年)、光州ビエンナーレ(アジアセクション・
コミッショナー / 韓国、2000年)、1991年から数年間、国際交流基金アセアン
文化センター(当時)の東南アジア現代美術調査に携わる。1997年から20年
間、宇都宮美術館館長。現在、美術評論家連盟常任委員。著書に「回転する
表象 現代美術 / 脱ポストモダンの視角」(現代企画室、1992年)など。



藤 浩志 Hiroshi FUJI

秋田公立美術大学副学長、教授 / 美術家 / 水と
土の芸術祭2018市民プロジェクト・ディレクター /
こどもプロジェクト・ディレクター

1960年鹿児島生まれ。十和田市現代美術館の副
館長(2012～14)、十和田市現代美術館館長
(2014～16)などを経て、現在は秋田公立美術大学
大学院複合芸術研究科教授・副学長、株式会社
藤スタジオ代表取締役、NPO法人プラスアーツ副理事長。水と土の芸術祭
2012では参加作家として地域での面白い活動を、街に部活として組み込み、活
動の場を「部室」として展開するプロジェクト「手部」を立ち上げた。水と土の芸
術祭2015では、終了後に芸術祭を振り返る連続市民フォーラムに出演している。



山内 朋樹 Tomoki YAMAUCHI

京都教育大学講師・庭師

1978年兵庫県生まれ。専門は美学、庭園論。京都
大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程指
導認定退学。ジルクレマンを軸に現代ヨーロッパの
庭や修景をかたちづくる思想と実践を考察しつつ、
その源泉を近現代の庭園史に探っている。また、在学
中に庭師をはじめ、研究の傍ら独立。京都を中心に
関西圏で庭をつくるほか、庭に焦点をあてた作品の制作やフィールドワークなど
をおこなっている。http://researchmap.jp/yamauchitomoki/



Photography by Yohei Sogabe

山口 晃 Akira YAMAGUCHI

画家

1969年東京都生まれ。群馬県桐生市に育つ。東京
芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)
修士課程修了。2013年自著「へんな日本美術史」
(祥伝社)で第12回小林秀雄賞受賞。2017年
桐生市芸術大使に就任。鳥瞰図・合戦図などの
絵画のみならず立体、漫画、インスタレーションなど
表現方法は多岐にわたる。主な展覧会に、2012年「望郷 TOKIORE(I) MIX」
(メゾンメルメス銀座8階フォーラム)、2015年「山口展展 前に下がる 下を仰ぐ」
(水戸芸術館現代美術ギャラリー)など。成田国際空港、副都心線早稲田駅
のパブリックアート、富士山世界遺産センターシンボル絵画を手がける一方、
新聞小説や書籍の挿絵・装画を担当するなど幅広い制作活動を展開。

モデレーター



原 久子 Hisako HARA

アートプロデューサー / 大阪電気通信大学教授

現代芸術、メディアアート等の執筆、展覧会・ワーク
ショップ企画、コンサルティングなどに携わる。主な共同
企画に「パリに笑壺を運ぶー現代日本映像作品
展」(りゅーとぴあ文化会館、2012)、「六甲ミーツ・アート
芸術散歩2011」(六甲山各所)、「あいちトリエンナーレ
2010」(愛知県美術館ほか、2010)、「Between
Site & Space」(ARTSPACE、シドニー、2009)、「TWS渋谷」(2008)、「Lab☆
Motion」(TWS本郷、2007)、「六本木クッキング2004」(森美術館)など。
共編著「変貌する美術館」(昭和堂)ほか。専門分野は現代美術、アート
マネジメント、文化政策。